

中央地域医療介護連携ネットワークチームの立ち上げについて

1 目的

医療機関や介護サービス事業所が多い中央地域をモデルに、中央地域医療介護連携ネットワークチーム（以下「チーム」という。）を立ち上げ、円滑な入退院支援の体制構築と医療・介護関係者間の連携を推進するための具体的方策や効果的な普及方法を検討する。

2 背景・理由

急速な高齢化と在宅療養の推進に伴い、医療と介護の両方を必要とする高齢者の早期に病院から自宅や退院先への移行の増加が見込まれる。こうした中で、スムーズな入院移行や在宅移行ができるよう、医療・介護関係者が連携して円滑な入退院支援を行うことがより一層重要となる。

呉市における退院支援や退院調整率は増加傾向にあるが、退院前カンファレンスへの参加率をみると、介護サービス事業所は90%以上と高いが、訪問業務をしている医療機関は24%程度で医療機関全体では19%程度と低い状況にあり、十分な情報共有や連携が図れず、円滑な入退院支援や在宅療養支援ができていないケースがある。

また、入退院支援の流れや仕組みづくりについて、呉市在宅医療・介護連携推進検討委員会で検討し、「入退院時の情報共有は一番の課題であり、スムーズに情報共有できる仕組みがあるといい」「医療・介護関係者がお互いのために情報共有するという認識を持つ必要がある」という意見があり、入退院支援における医療・介護関係者の支援体制の構築が必要である。

呉市では、平常時だけでなく不測の事態においても安定的な医療・介護サービスを継続的に提供できるよう、医療・介護関係者間の情報の共有化と連携体制の整備の一環として、退院前カンファレンスのオンライン化に取り組んでいる。令和4年度には、オンラインにおいても円滑な情報共有が可能となることを目指して、全地域包括支援センターにHMネットの利用促進のために貸出用パソコンを設置し、呉市版退院前カンファレンスオンライン実施のための手引き（以下「手引き」という。）を作成した。

こうした背景から、手引きの普及及び活用方法やHMネット貸出用パソコンの効果的な運用と入退院支援における適切な情報共有及び連携推進のための具体的方策を検討する必要がある。

3 主催

呉市中央地域包括支援センター、呉市在宅医療・介護連携推進コーディネーター

4 参加機関、参加職種（コアメンバー）

本日の名簿一覧をご参照ください。（別紙4）

5 検討事項

- (1) 手引きの効果的な普及及び活用方法の検討
- (2) HMネット貸出用パソコンの効果的な運用方法の検討
- (3) 円滑な入退院支援の体制構築の検討
- (4) 医療・介護関係者の意見交流会

6 今後の予定

- ・年度内に数回、意見交換を通じてチームの目的や医療・介護連携に関する課題を共有する。
- ・中央地域の医療・介護関係者等を対象にした研修会（顔の見える関係づくりの支援）を開催する。